

# オンライン授業のおしつけで

# 大混乱

## 「市長による教育介入を許さず、転換の方向を探る」

### 大阪市をよくする会が第1回教育シンポを開催

7月11日午後、大阪市をよくする会・大阪市退職教職員の会(市退教)が共催した第1回教育シンポジウムが、“大阪市の学校・教育はどうなっているの?実態を語り合い共有しよう”“首長による教育介入の問題点を解明し、転換の方向性を探る”をテーマに開催されました。

その焦点は、松井市長による「オンライン授業」の突然の押し付け表明で、学校現場が大混乱となり、子どもたちから授業を奪ったことでした。市長による「教育介入」の違法性・問題点が見事に明らかになりました。

### 被害者は子どもたち…「オンライン授業」の生々しい実態

シンポジウムは、最初に中学生の母親と現職教職員から「オンライン授業」での大混乱の実態が生々しく語られました。「オンライン授業」とは名ばかりで、そもそもオンライン環境は整っておらず、双方向の通信はほとんどできず、実際は接続作業で5分、使い方の説明で5分、ジャンケンで5分の15分が実態だったと語られました。被害者は授業を奪われた子どもたちであり、市長の不当な介入と教育委員会の対応への怒りが表明されました。

## 対面に勝る教育はない

### シンポジスト 西林幸三郎元大阪府小学校校長会会長



元大阪府小学校校長会会長  
西林 幸三郎さん

橋下氏が知事に就任して直ぐに35人学級を崩して財源を生み出す提案をしたとき、10日間で109万人分の署名を集めて跳ね返したとき「正義はあなた方にある」と現職副知事から激励を受けた経験とともに、ICT教育のおしつけは教育の破壊に通じること、教育は対面に勝るものではなく、子ども顔をみて行うものだと言われました。

### 「会議なき教育長の専決」を検証していく

井上ひろし大阪市議は、大阪市教育委員会会議を開かず、市長への忖度による教育長の専決に対して「執行機関ではなく従属機関に成り下がった」と厳しく批判し、問題点を掘り下げ、検証・追及していくと発言しました。



## 首長は教育長に職務命令できない

### シンポジスト 宮本たけし前衆議院議員

2014年に大津市の教育委員会の不祥事をきっかけにし、教育委員会を解体する攻撃を維新・自民が強めるなか、国会で「地方教育行政法」の改悪が議論され、前川喜平文科省局長(当時)から



日本共産党前衆議院議員  
宮本 岳志さん

「首長が教育長に職務命令を発することはできない」という答弁を引き出したことを、動画を使って示し、松井市長による「教育介入」が如何に違法な行為であるかを詳しく解明しました。

### 前川喜平さんよりメッセージ

シンポジウムにお声がけいただき、ありがとうございます。まことに残念ながら、当日は愛媛県松山市で会合に出席予定のため、シンポジウムにうかがうことができません。日本の教育が危うくなっているとき、このようなシンポジウムが開催されることには、大変大きな意義があると思います。実りあるシンポジウムとなりますことをご期待申し上げます。また、機会がありましたら、お声がけいただければ幸いです。

現代教育行政研究会代表 前川 喜平

